

2018年3月期

IR説明会

株式会社 極 洋 (証券コード: 1301)

<http://www.kyokuyo.co.jp>

食卓に、海のおいしさと、おどろきを。



<http://www.seamarche.jp>



目次



前中期経営計画『バリューアップ・キョクヨー2018』の総括

- 前中期経営計画の振り返り 3～12ページ
- 最終年度（2018年3月期）決算の概要 13～17ページ
- 2018年3月期 事業セグメント別の状況 18～24ページ

新中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』の概要

- 基本方針と目標値 26～27ページ
- 『Change Kyokuyo 2021』の事業戦略 28～30ページ

2019年3月期 施策及び業績予想

- 事業セグメント別の施策 32～33ページ
- 2019年3月期 業績予想 34～35ページ
- 2019年3月期 設備投資計画 36ページ



前中期経営計画 『バリューアップ・キョクヨー2018』の総括

➤ 基本方針

魚に強い総合食品会社として、
収益基盤の安定と変化への対応力を高め、
新たな価値を創造する企業を目指す

東京五輪開催年度となる2021年3月期に向けた中間地点と位置付け、
『グローバル戦略』、『シナジー戦略』を更に進化させるとともに、お客様
目線を意識した付加価値商品を提供するため、新たに『差別化戦略』を
加え、目標達成に向けて取り組んでまいりました。



前中期経営計画の振り返り



➤ 3カ年のトピックス

- **Kyokuyo America Corporation ロサンゼルス営業所を開設【2015年5月】**
当社が得意とするきめ細かい顧客対応で海外での販売拡大を目指す。
- **指宿食品(株) を設立 【2015年7月】**
カツオ水揚げ基地である鹿児島で製造し、西日本マーケットでの販路を拡大。
- **極洋食品(株)塩釜工場が完成 【2015年12月】**
魚の強みを活かした水産冷凍食品の国内基幹工場が完成。
- **極洋水産(株)惣右衛門工場を設立 【2016年8月】**
原料集積地の焼津でネギトロ製品を原料調達から生産、販売まで一貫して行う。
- **冷蔵運搬船事業から撤退 【2016年9月】**
事業の見直しを進め、保有冷蔵運搬船3隻の全てを売却し収益を安定化。



前中期経営計画の振り返り



- **公益社団法人 日本カヌー連盟へ年間協賛【2017年4月】**
オフィシャルパートナーとして日本代表選手をはじめ同連盟の活動をサポートし、カヌー・スラローム・ジャパンカップ「キョクヨーシリーズ」に冠協賛。
- **Kyokuyo America Corporation ニューヨーク営業所を開設【2017年4月】**
生食用を中心に、北米西海岸のLA営業所と連携し全米での当社製品の販売拡大に向けて、東海岸のNYに営業所を新設。
- **株式会社極洋 創立80周年【2017年9月】**
1937年に漁撈会社としてスタートし、水産物を中心とした総合食品会社グループへと成長を続け、2017年9月9日で創立80周年。
- **完全養殖クロマグロ「本鮪の極 つなぐ」の出荷開始【2017年11月】**
極洋フィードワンマリン(株)は、成魚となった完全養殖クロマグロを新ブランド「本鮪の極 つなぐ <TUNAGU>」と名付け出荷を開始。
- **生産工程の“見える化”に向けAIを活用し実証実験【2018年2月】**
AIを活用し、簡易な構成で実装できる、水産加工品の生産工程の“見える化”技術の開発を目指した実験により、生産効率向上につながる効果を実証。



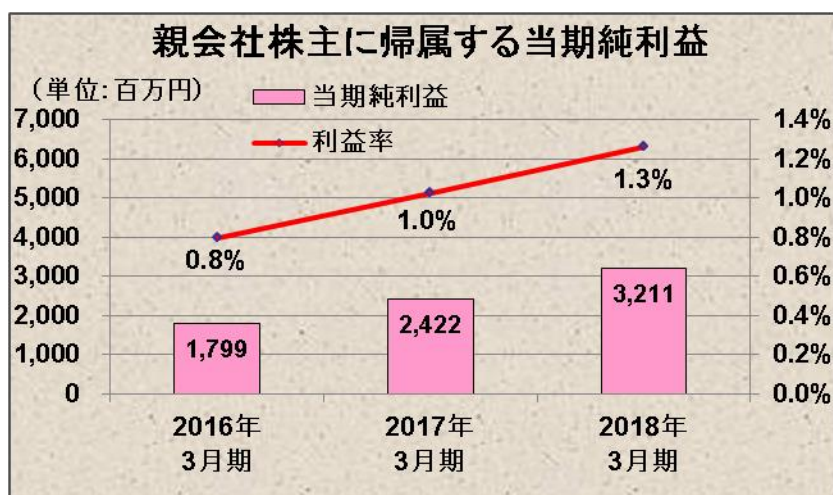
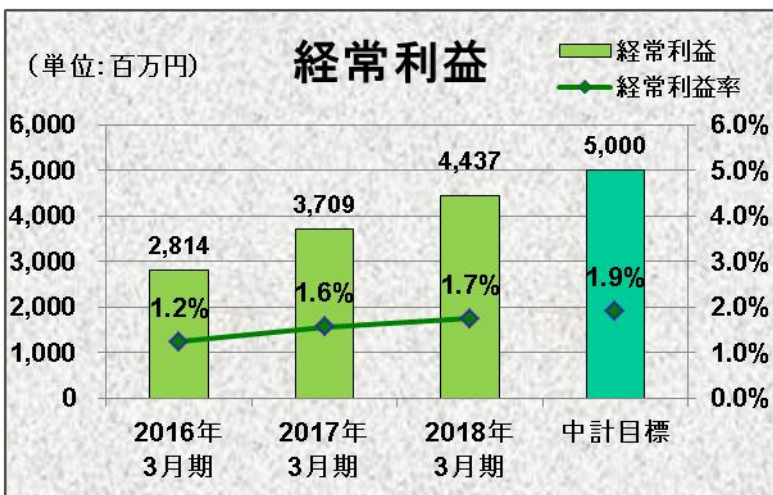
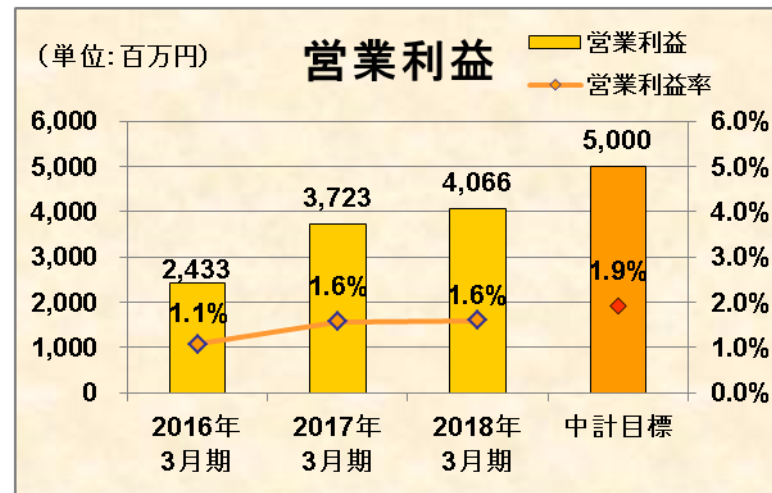
前中期経営計画の振り返り



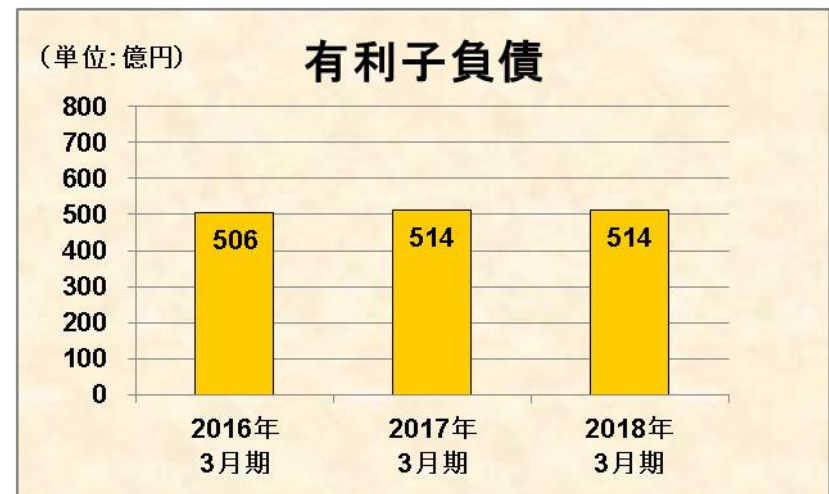
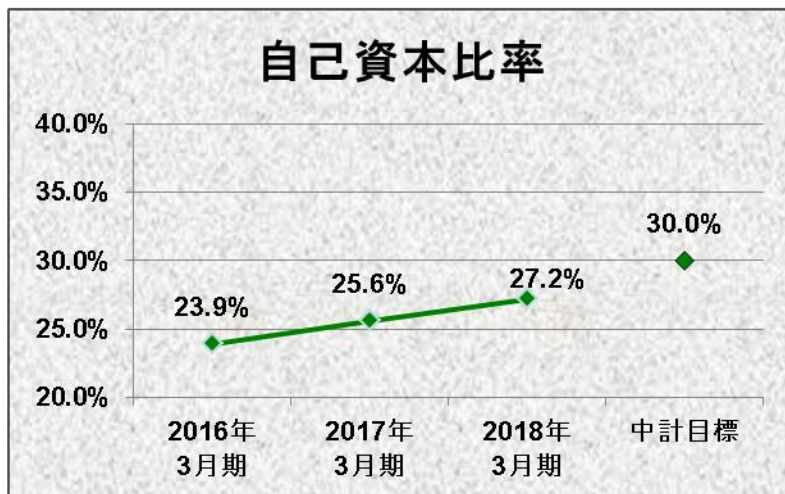
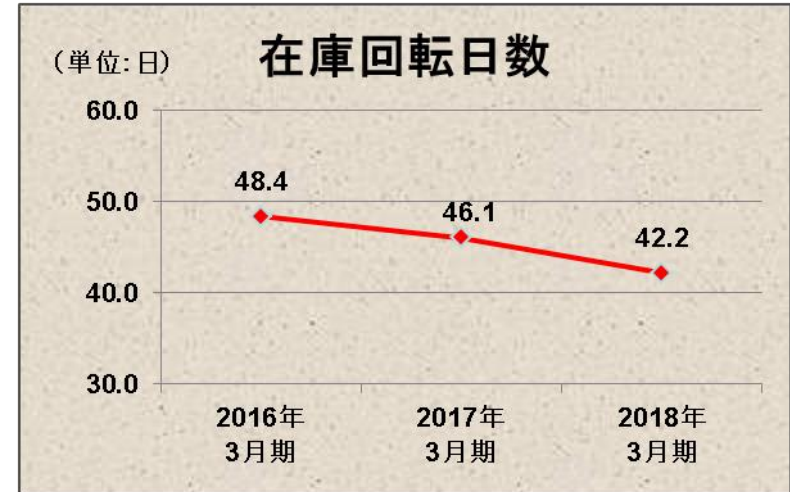
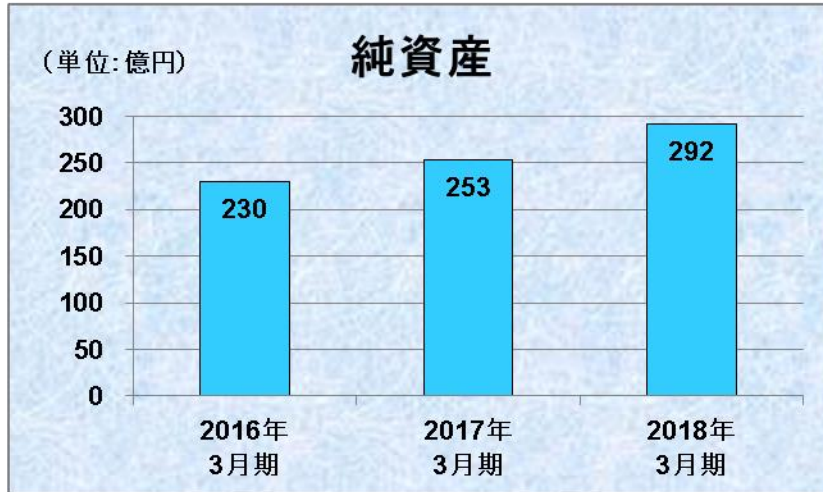
➤ 目標値と実績推移

	目 標 値	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	目 標 比
売上高	2,600億円	2,266億円	2,365億円	2,547億円	△52億円
営業利益	50億円	24億円	37億円	40億円	△9億円
経常利益	50億円	28億円	37億円	44億円	△5億円
海外売上高比率	10%	8.5%	7.8%	8.2%	△1.8ポイント
自己資本利益率 (ROE)	10%	8.0%	10.2%	11.9%	+1.9ポイント
自己資本比率	30%	23.9%	25.6%	27.2%	△2.8ポイント
有利子負債資本倍率 (D/Eレシオ)	2倍以内	2.2倍	2.0倍	1.8倍	+0.2ポイント

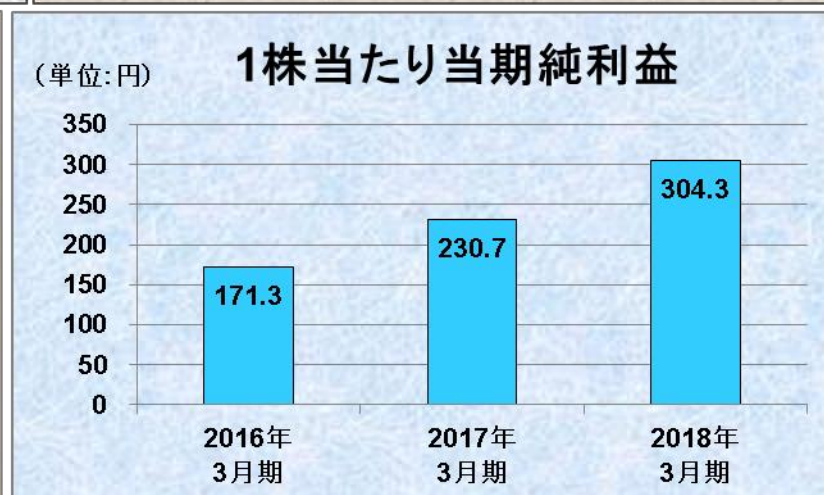
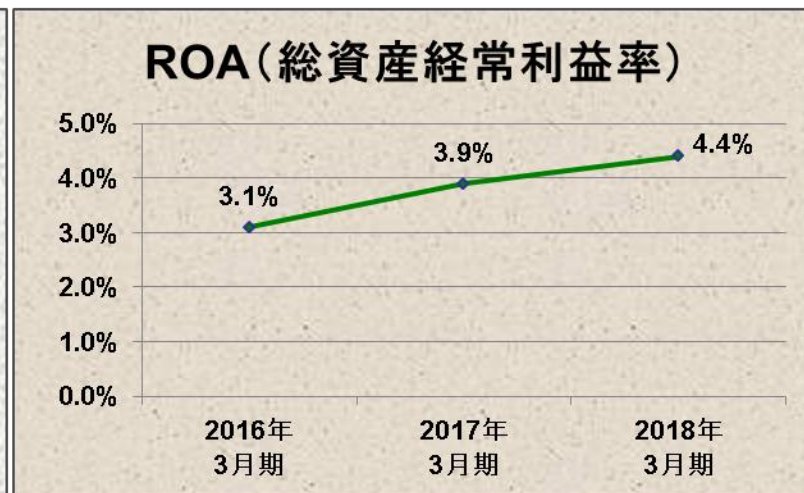
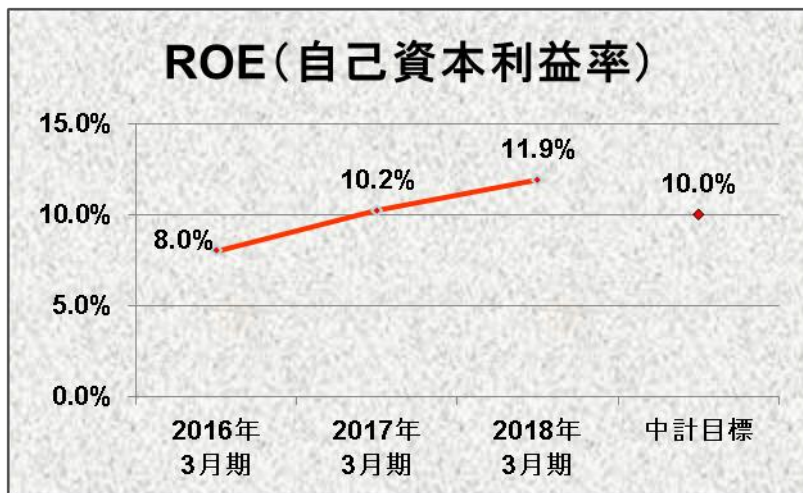
➤ 連結業績の推移



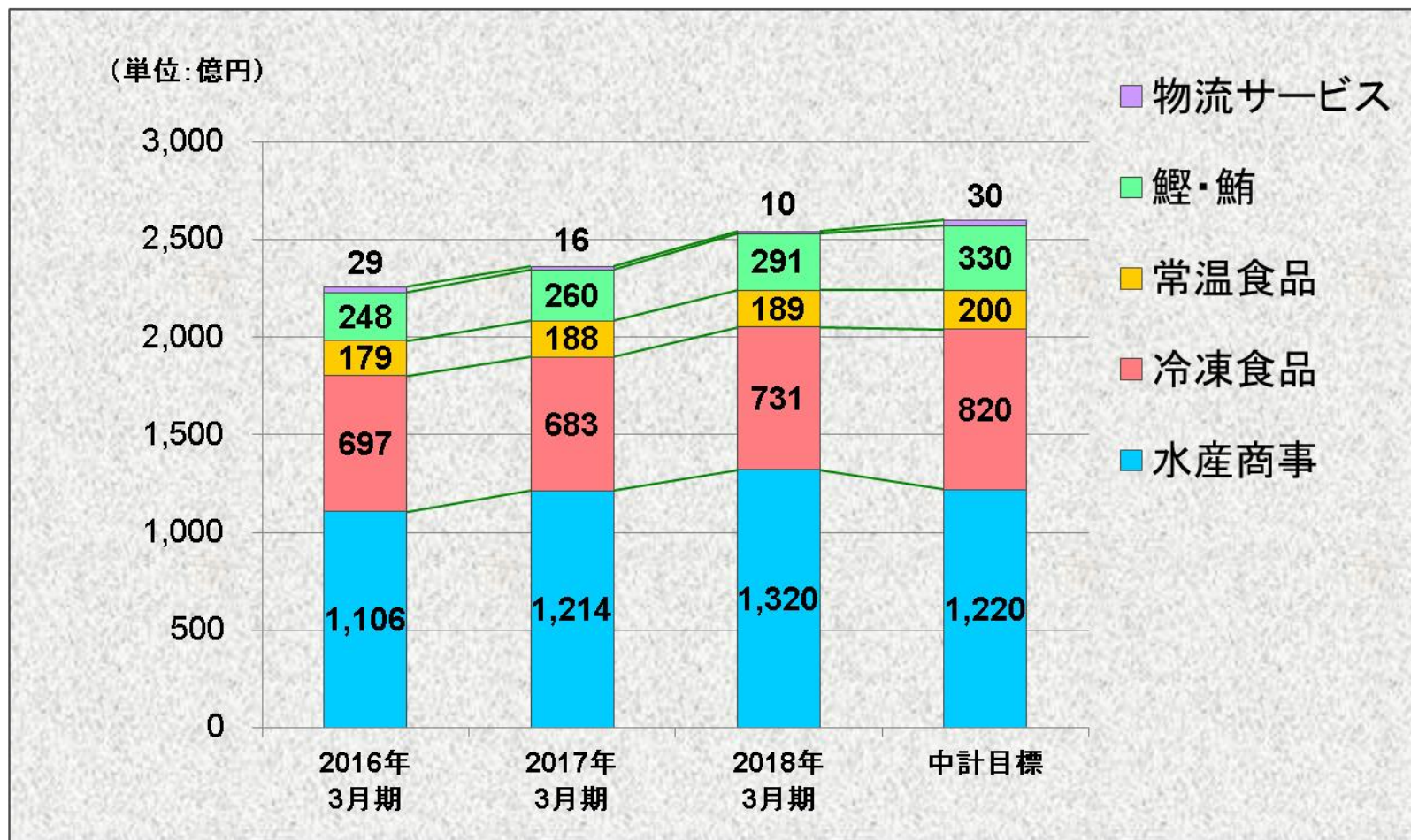
➤ 連結財務指標の推移



➤ 連結経営指標の推移



➤ 事業セグメント別売上高の推移



➤ 事業戦略の成果

【グローバル戦略】

- 高まる世界的な水産物需要を背景に、北米NY、LAに営業拠点を設置した米国をはじめ、中国や韓国、東南アジアへの販売を強化
- 国内直系工場からの輸出に向け、各種認証の取得を促進
- 完全養殖クロマグロの北米向け輸出販売を開始

【シナジー戦略】

- 水産商事の原料供給を基盤に直系工場での生産稼働率が向上
- グループ企業相互間での情報を共有化
- 水産事業と食品事業との融合による取り組みにより、グループ内のシナジー効果を発揮できる体制を整備

【差別化戦略】

- グループ基幹工場として、極洋食品(株)塩釜工場が順調に稼働
- 完全養殖クロマグロ「本鮪の極 つなぐ」の出荷を開始
- 「だんどり上手」シリーズやオーシャンキングの新商品など、差別化商品の販売が伸長
- 水産加工の加工度を高め、原料調達の優位性を発揮させながら、付加価値商品の国内外での販売が拡大
- HACCP等、規格、認証の取得による差別化
- 家庭用冷凍食品は時短、簡便、使いやすさにこだわった魚惣菜の商品開発に努め、コンビニや量販店での導入が拡大



最終年度(2018年3月期)決算の概要



➤ 連結損益計算書

(単位:百万円)

	実績		前期比		当初予想	当初予想比	
	連結会計年度		増減金額	増減比率	連結会計年度	増減金額	増減比率
	2017年3月期	2018年3月期			2018年3月期		
売上高	236,561	254,783	18,222	7.7%	250,000	4,783	1.9%
営業利益	3,723	4,066	342	9.2%	4,000	66	1.7%
営業外収益	764	809	44	—	—	—	—
営業外費用	779	438	△340	—	—	—	—
経常利益	3,709	4,437	727	19.6%	4,000	437	10.9%
特別利益	651	1,576	925	—	—	—	—
特別損失	458	1,461	1,003	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,422	3,211	788	32.5%	2,700	511	18.9%

- ・当初予想：2017年5月11日に発表した2018年3月期業績予想数値
- ・売上高：水産商事が伸長し、前期比182億円の増収
- ・営業利益：水産商事は前期比で減益となるも、冷凍食品、常温食品及び鰹・鮪の収支改善などにより前期比3億円の増益
- ・親会社株主に帰属する純利益：貸倒引当金繰入額の減少などにより前期比7億円の増益



最終年度(2018年3月期)決算の概要



➤ 個別損益計算書

(単位:百万円)

	実績		前期比	
	2017年3月期 (前期)	2018年3月期 (当期)	(増減金額)	(増減比率)
売上高	228,083	247,950	19,867	8.7%
営業利益	3,187	2,853	△333	△10.5%
経常利益	2,835	2,870	34	1.2%
当期純利益	2,194	2,348	153	7.0%

- ・ 売 上 高 : 水産商事が伸長し、前期比198億円の増収
- ・ 営 業 利 益 : 年末以降、水産商事の市況悪化の影響などにより前期比3億円の減益



最終年度(2018年3月期)決算の概要



➤ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2017年 3月末	2018年 3月末	前期比		2017年 3月末	2018年 3月末	前期比
資産の部				負債の部			
流動資産	72,351	82,389	10,037	流動負債	45,195	52,100	6,904
受取手形及び売掛金	29,113	32,879	3,765	内、短期借入金	29,359	31,234	1,875
商品及び製品	29,089	29,943	853	固定負債	26,804	24,962	△1,842
仕掛品	2,523	2,854	331	内、長期借入金	21,560	19,800	△1,759
原材料及び貯蔵品	5,283	7,124	1,841	負債合計	72,000	77,062	5,062
その他	6,340	9,586	3,245	純資産の部			
固定資産	25,040	23,916	△1,124	株主資本	25,301	28,828	3,526
有形固定資産	17,137	15,377	△1,759	その他の包括利益累計額	△325	60	386
無形固定資産	496	497	1	非支配株主持分	415	353	△61
投資その他の資産	7,407	8,040	633	純資産合計	25,391	29,243	3,851
資産合計	97,391	106,305	8,913	負債及び純資産合計	97,391	106,305	8,913

※ 短期借入金には1年内償還新株予約権付社債を含む。



最終年度(2018年3月期)決算の概要



➤ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

		連結会計年度		
		2017年3月期	2018年3月期	前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	3,902	4,552	649
	減価償却費	1,841	1,814	△26
	売上債権の増減(△は増加)	△4,792	△3,777	1,015
	たな卸資産の増減(△は増加)	215	△3,102	△3,318
	仕入債務の増減(△は減少)	△1,241	4,722	5,963
	その他	675	△1,008	△1,684
	小計	601	3,201	2,599
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△2,732	△1,372	1,359
	その他	733	193	△540
	小計	△1,998	△1,179	819
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金の増減(△は減少)	1,618	716	△902
	長期借入れの増減(△は減少)	△457	360	817
	その他	△1,055	△821	234
	小計	105	255	150



最終年度(2018年3月期)決算の概要

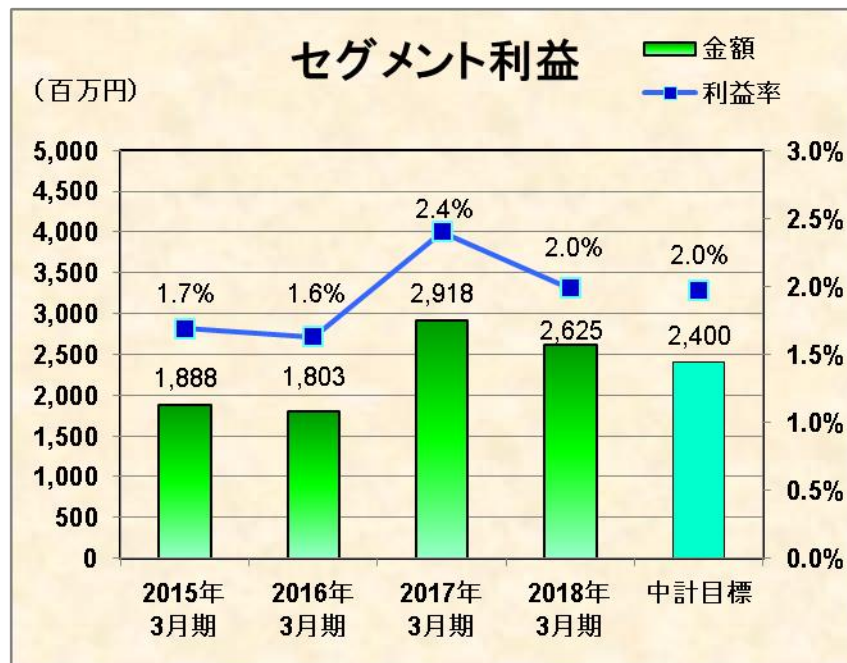


➤ 事業セグメント別売上高及びセグメント利益<連結>

(単位:百万円)

	売上高			セグメント利益		
	連結会計年度		前期比	連結会計年度		前期比
	2017年3月期	2018年3月期		2017年3月期	2018年3月期	
水産商事	121,420	132,056	10,636	2,918	2,625	△292
冷凍食品	68,304	73,188	4,883	655	884	229
常温食品	18,816	18,973	156	102	363	261
鰹・鮪	26,009	29,145	3,136	696	1,029	333
物流サービス	1,604	1,035	△568	138	248	109
その他	406	384	△21	△787	△1,086	△298
合計	236,561	254,783	18,222	3,723	4,066	342

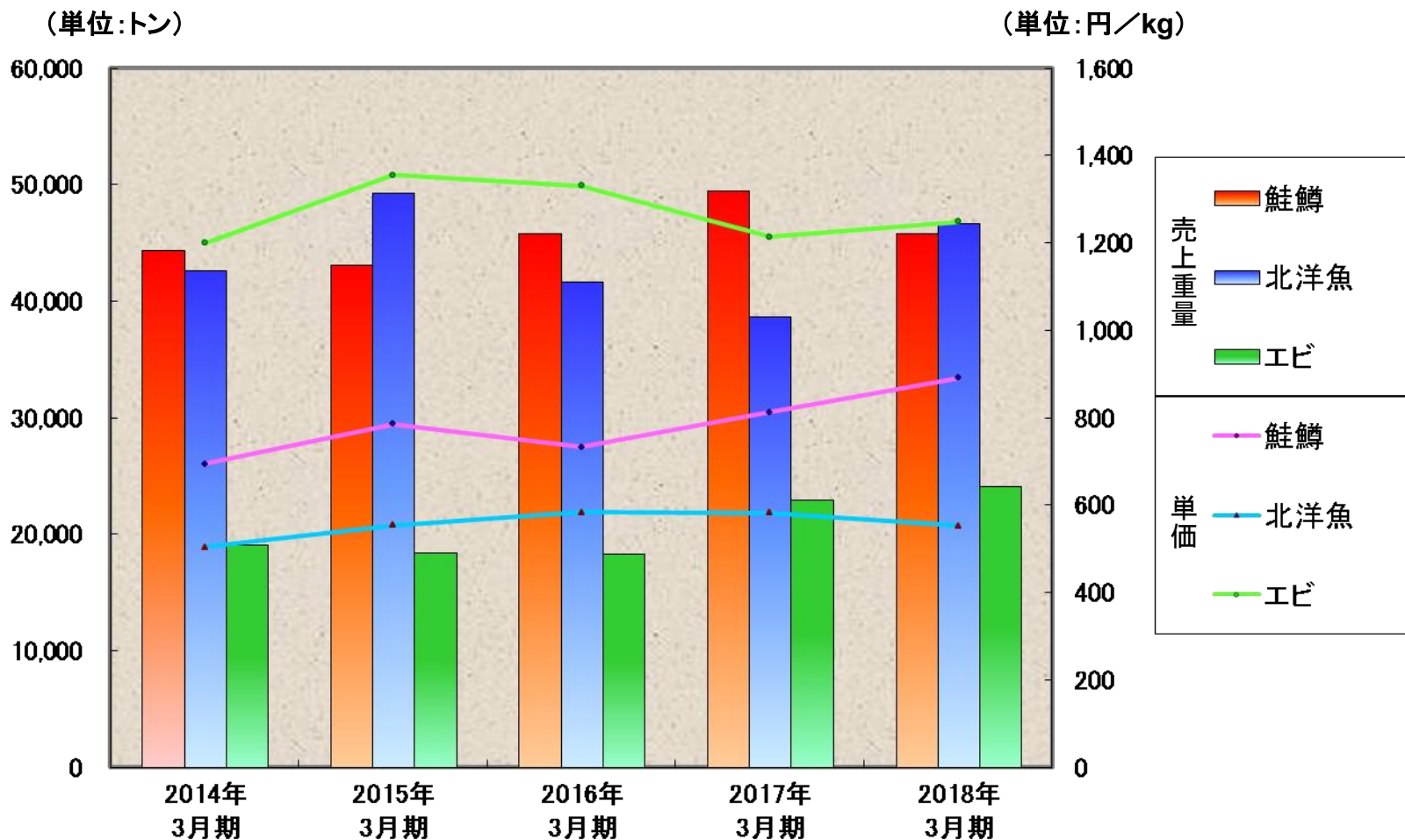
➤ 水産商事事業<連結>…水産物の買付及び販売



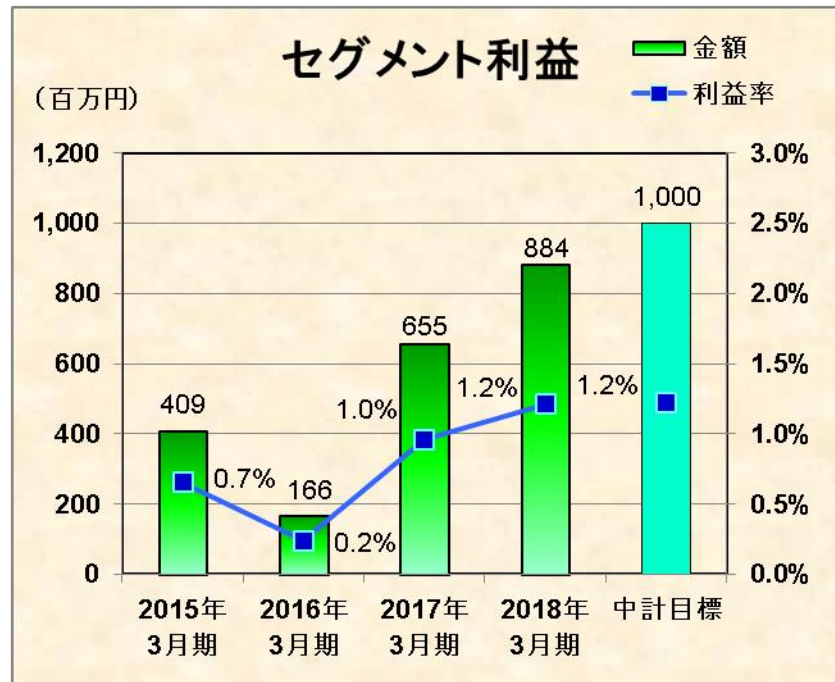
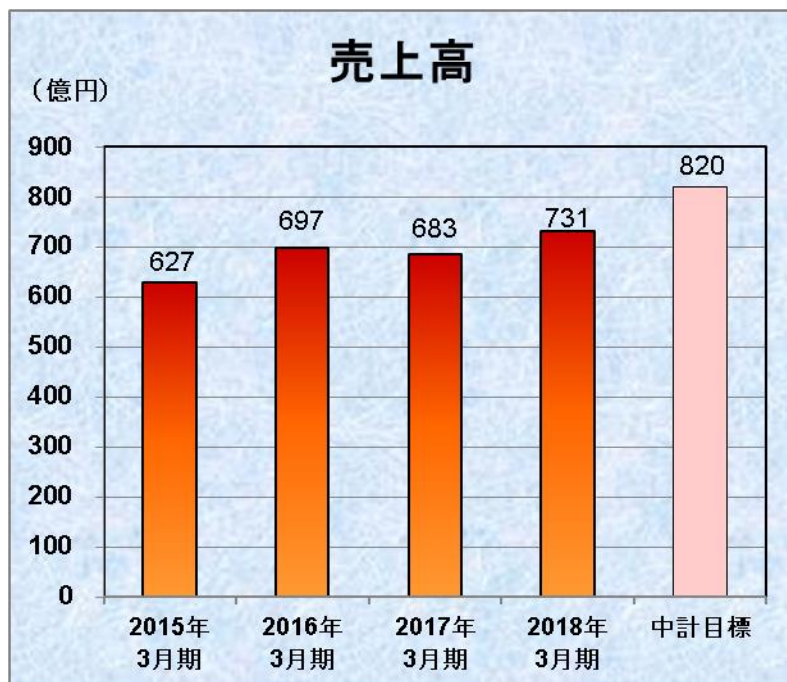
【当期の状況】

- 増収減益
 - 販売面では鮭鱒、カニ、エビ、北洋魚など主要魚種で売上が伸長
 - 定塩サケ製品などの付加価値製品の拡販に注力
 - 米国向けを中心に海外での水産物販売を推進
 - 年末商戦以降、市況悪化により鮭鱒、エビ、北洋魚などの魚種で価格調整

水産商事事業<個別>…魚種別売上重量・単価推移



➤ 冷凍食品事業<連結>…冷凍食品の加工及び販売



【当期の状況】

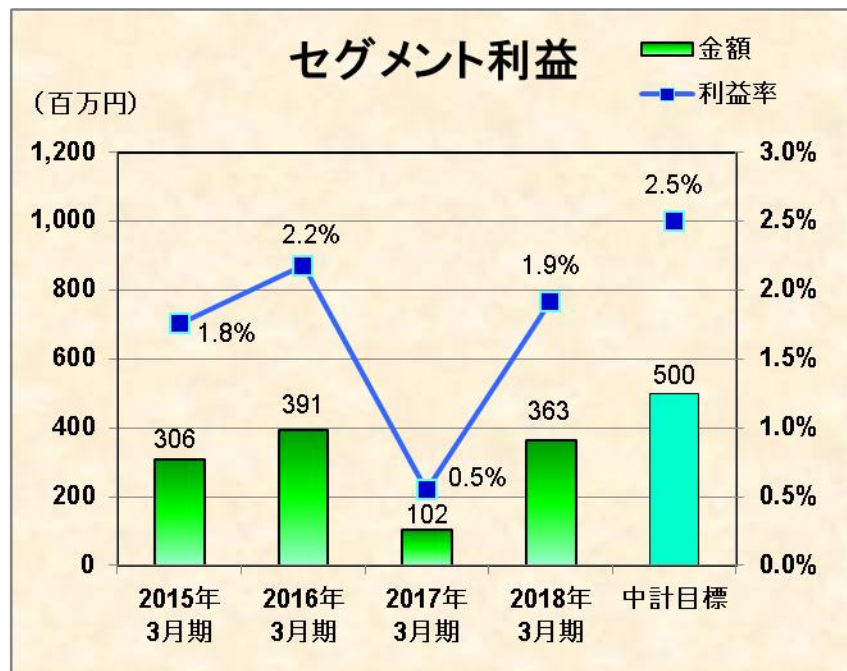
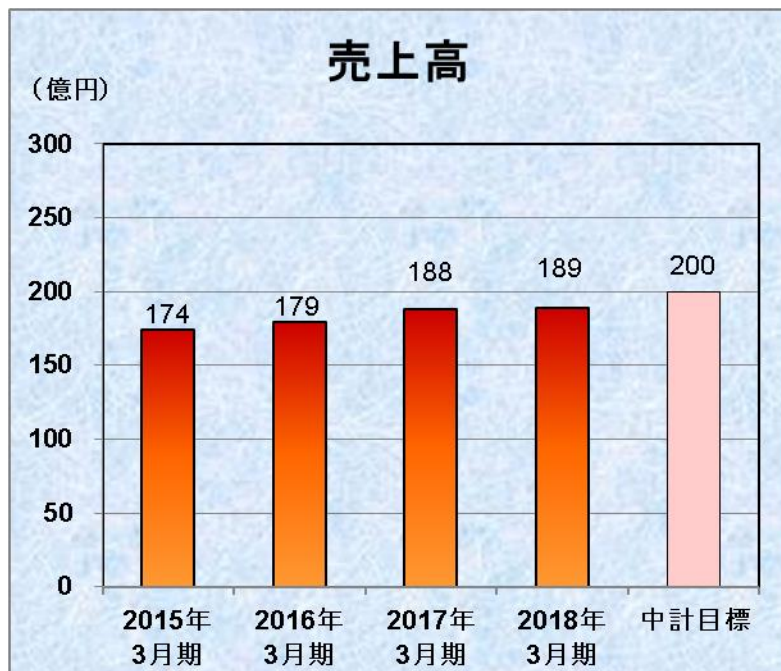
- 増収増益
 - 寿司種を中心とした生食用商品や「だんどり上手」シリーズなど加熱用商品を拡販
 - 水産フライやカニ風味かまぼこなどの自社工場製品の販売が伸長
 - 家庭用冷凍食品の塩釜工場製品をはじめ国内直系工場の生産量が順調に推移



2018年3月期 事業セグメント別の状況



➤ 常温食品事業<連結>…缶詰・珍味製品他の加工及び販売



【当期の状況】

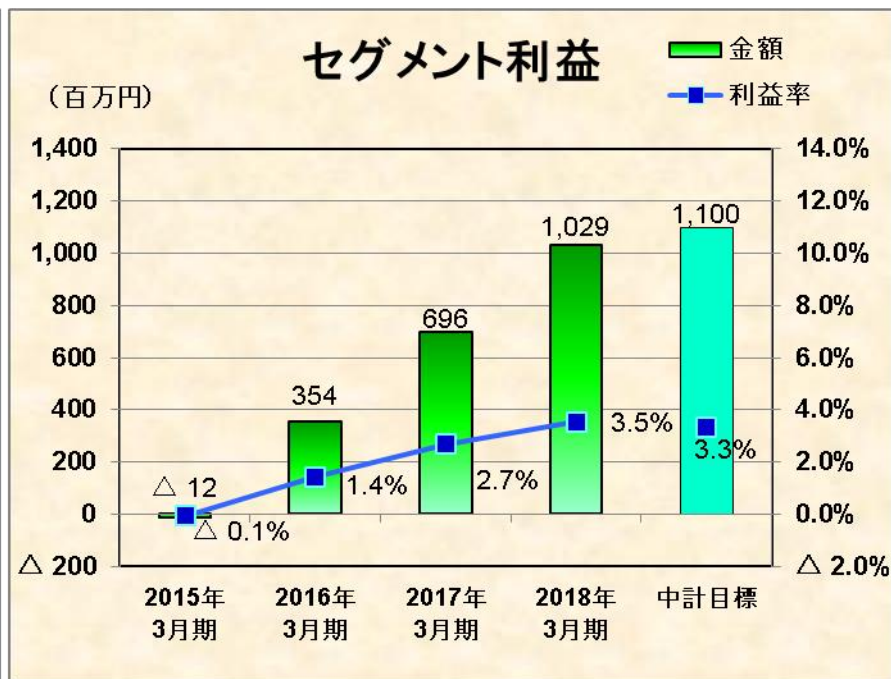
- 増収増益
 - 高値の魚価による厳しい環境のなかサバなどの水産缶詰の拡販に注力
 - 原料価格高騰が続くイカ加工品は価格改定や規格変更のコストアップ対策を実施



2018年3月期 事業セグメント別の状況



➤ 鯉・鮪事業〈連結〉…海外まき網・養殖・鯉鮪加工販売事業

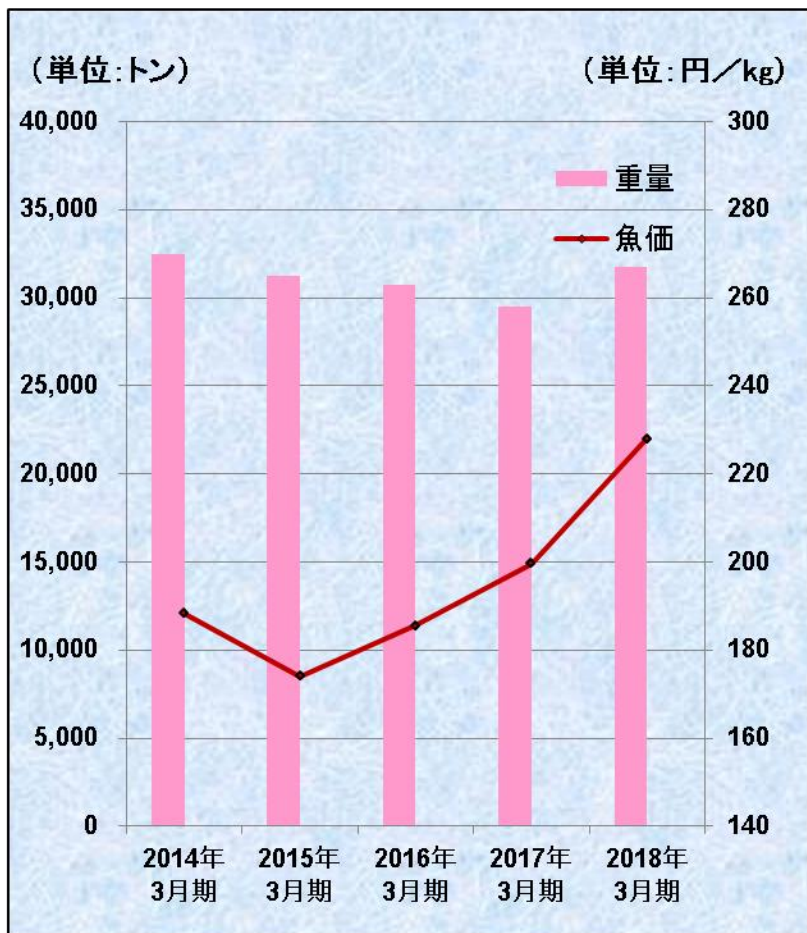


【当期の状況】

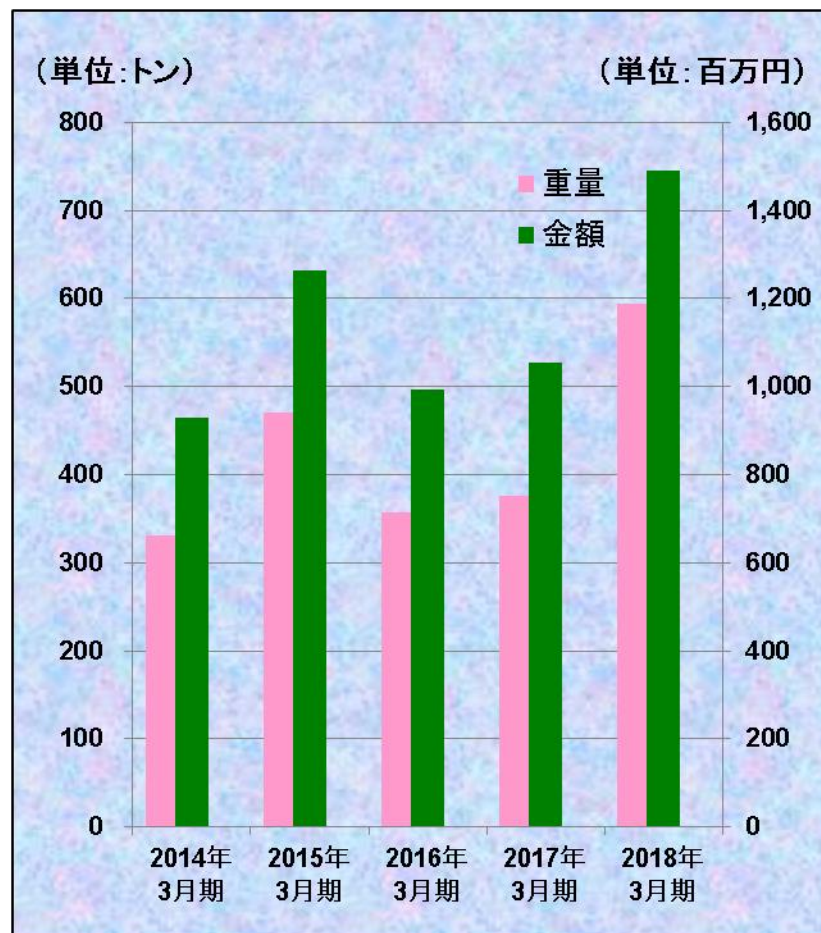
- 増収増益 《海外まき網事業》
 - 魚価が高値で推移し収支が大きく改善
- 《養殖事業》
 - 天然種苗の集魚体制を改善し稚魚を安定的に確保
- 《加工販売事業》
 - 外食・量販店向けにカツオタタキやネギトロ製品の販売が伸長

鯉・鮪事業

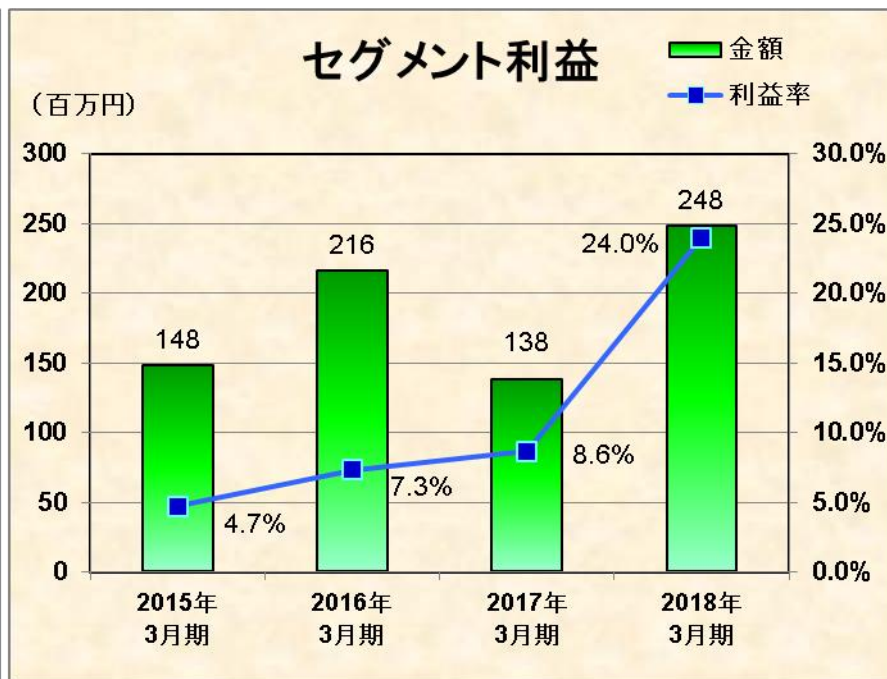
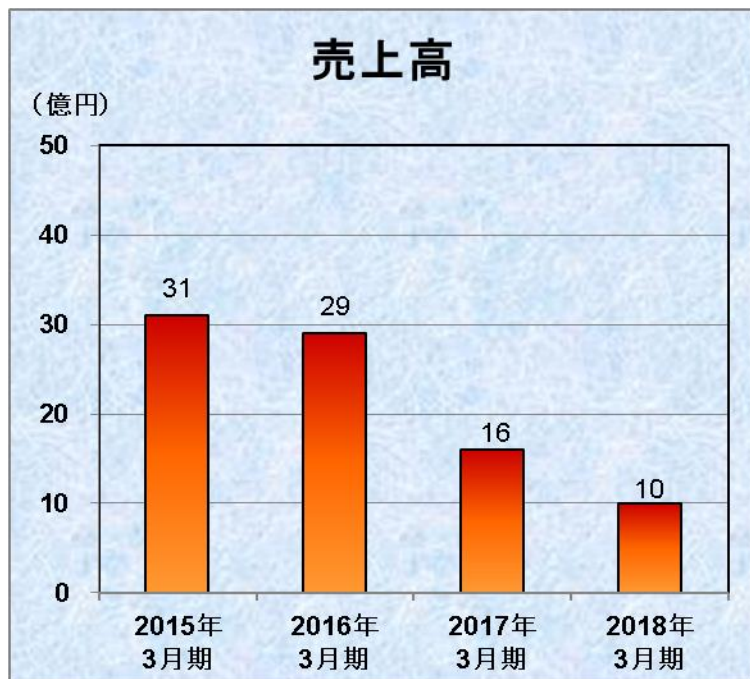
〈海外まき網事業〉…水揚げ推移



〈養殖事業〉…売上推移



➤ 物流サービス事業<連結>…冷蔵倉庫事業



【当期の状況】

- 減収増益
 - 前期に冷蔵運搬船事業から撤退し売上は前期比で減少
 - 冷蔵倉庫事業は入庫貨物の確保を図り営業力を強化

※2017年3月期までは冷蔵運搬船事業を含む



新中期経営計画 『Change Kyokuyo 2021』の概要

基本方針と目標値

➤ 基本方針

魚を中心とした総合食品会社として
高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの
社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と
時間価値の提供により企業価値の向上を目指す

食のライフスタイルの変化に対応し、食品供給にあたっての利便性の追求や調理の簡便化など、時間価値という付加価値を提供しながら、**ESG重視の事業活動**を通じて、食品事業、海外販売の**拡大**、商品開発やブランド戦略の**強化**、グループ事業構造の**均衡**の各戦略を進めることで、より強固な事業経営に向けて高収益構造へ大きく転換することを目指してまいります。



基本方針と目標値



➤ 新中期経営計画の最終年度(2021年3月期)目標値

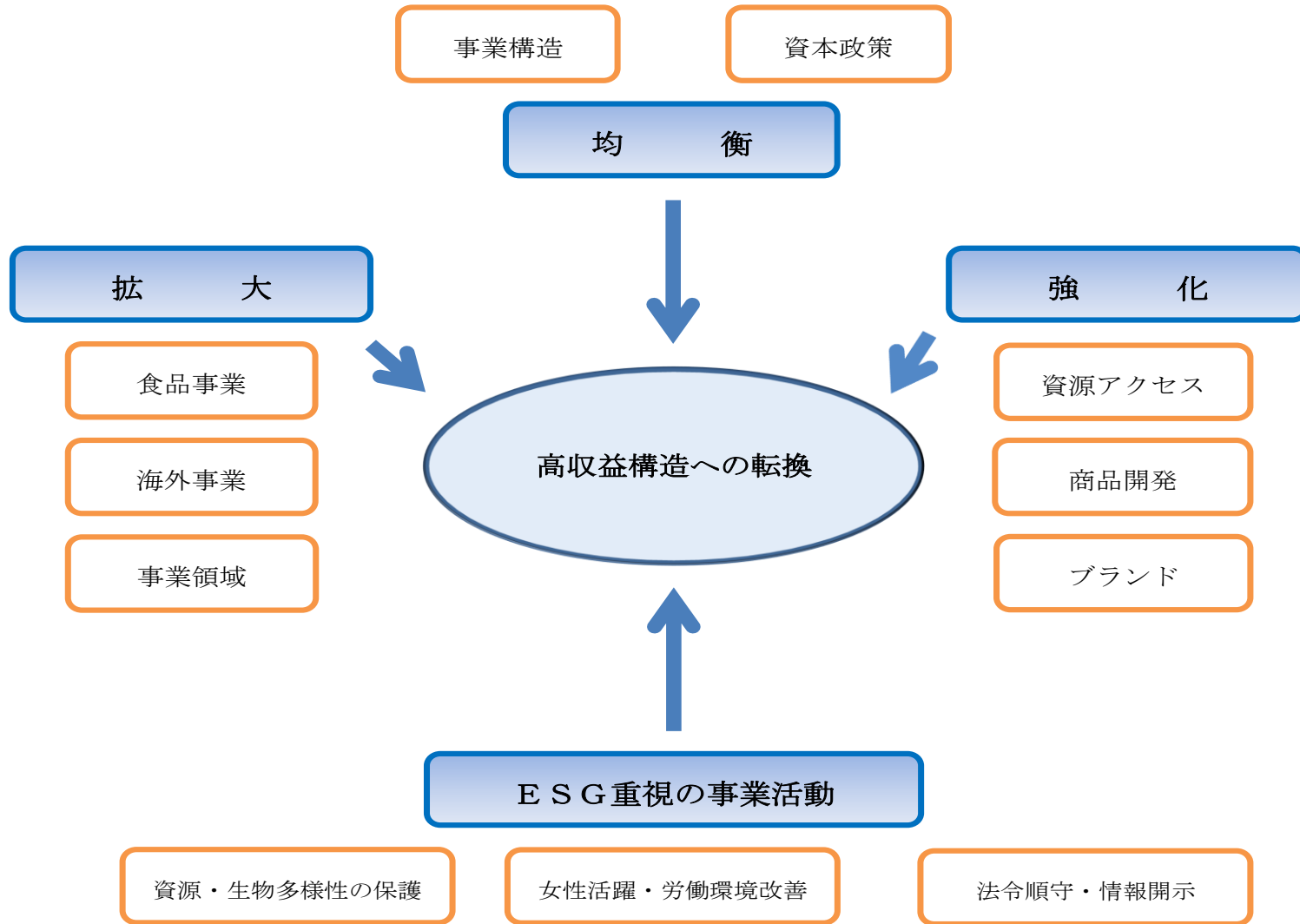
売上高	3,000億円
営業利益	60億円
営業利益率	2.0%
海外売上高比率	15%
自己資本当期純利益率(ROE)	10%
自己資本比率	30%
有利子負債資本倍率(D/Eレシオ)	1.7倍以下

(単位:億円)

	水産商事	冷凍食品	常温食品	鰹・鮪	その他	合計
売上高	1,470	1,000	200	320	10	3,000
営業利益	30	23	5	12	△10	60



『Change Kyokuyo 2021』の事業戦略





『Change Kyokuyo 2021』の事業戦略



【拡大戦略】

- 生産性の向上、コストの低減による競争力のある商品を提供して販売拡大を図るとともに新規の商品アイテムへの取組み、生産工場の設備増強・改善を進め、**食品事業**を拡大
- 海外マーケットの拡充と並行して生産工場での認証(HACCP等)を取得し、海外販売可能な商品の開発を行い、**海外事業**を充実
- 既存事業の拡大案件に限らず、周辺事業への参入、あらたな業態への取組みなど幅広い**事業領域**を視野に入れ、規模拡大のための積極的な成長投資

【強化戦略】

- 調達力の多様化と安定供給の維持、及び拡大のための**資源アクセス**の強化
- **商品開発**のスピード化、アイテムの拡充
- 市販食品ブランド「シーマルシェ」の再構築と、80年培ってきた「キョクヨー」という社名をはじめとする**ブランド**の認知度向上

【均衡戦略】

- ❑ 冷凍食品及び常温食品セグメントの収益力を上げ、グループ**事業構造**の均衡
- ❑ 自己資本の充実と有利子負債の削減に向けた資産の圧縮、効率的な資金運用に努め、適切な**資本政策**により資本構成の均衡

【ESG重視の事業活動】

- ❑ 環境面における、水産**資源**の持続的な活用と、**生物多様性の保護**のための規格・認証の取得を進め、水産物を安定供給
- ❑ 地域社会とのコミュニケーションを通じて、地域の活性化、環境保全などにも積極的に取り組み、**労働環境の改善**と**女性活躍**などワークライフバランスを意識した職場づくり
- ❑ コンプライアンスの徹底はもとより、監視・監督体制の充実と適切な運用、経営の効率性、透明性の確保、**法令の順守**、積極的な**情報開示**とステークホルダーとのコミュニケーションの充実



2019年3月期 施策及び業績予想



事業セグメント別の施策



【水産商事セグメント】

- 市況を踏まえ販売に見合った買付と在庫管理を徹底
- 川上から末端に直結した販売ルート of 構築と加価値商品の開発
- 海外拠点との連携による海外マーケットの積極的開拓

【冷凍食品セグメント】

- 直系工場のフル稼働とAIの活用によるコストダウン
- 主要取引先との取り組み強化と極洋商品の販売拡大
- 畜肉及び冷凍野菜の事業拡大



事業セグメント別の施策



【常温食品セグメント】

- 大手量販店をはじめとする主要販売先への販売強化
- 通信販売やECサイト、健康食品の売上拡大

【鰹・鮪セグメント】

- 養殖事業の収益安定化
- 海外蓄養マグロの取り扱い拡大と自社工場の効率的活用
- 海外まき網事業の更なる効率化

【物流サービスセグメント】

- 極洋グループの在庫を核とした庫腹率の向上
- ロジスティクス事業との協業と配送事業の拡大



2019年3月期 業績予想



➤ 連結業績予想

(単位:百万円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	前期比	
			増減金額	増減比率
売上高	254,783	267,000	12,216	4.8%
営業利益 (営業利益率)	4,066 (1.6%)	4,800 (1.8%)	733	18.0%
経常利益 (経常利益率)	4,437 (1.7%)	4,600 (1.7%)	162	3.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,211	3,200	△11	△0.3%



2019年3月期 業績予想



➤ 事業セグメント別業績予想

(単位: 百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	前期比	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	前期比
水産商事	132,056	132,000	△56	2,625	2,800	174
冷凍食品	73,188	83,000	9,811	884	1,500	615
常温食品	18,973	20,000	1,026	363	400	36
鰹・鮪	29,145	31,000	1,854	1,029	1,100	70
物流サービス	1,035	1,000	△35	248	250	1
その他	384	0	△384	△1,086	△1,250	△163
合計	254,783	267,000	12,216	4,066	4,800	733



2019年3月期 業績予想



➤ 2019年3月期 設備投資計画

	概要	2018年3月期 3月末実績	2019年3月期 計画
極 洋	塩釜新工場関連	2億円	2億円
	生産工場関連	1億円	1億円
	研究所関連	1億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	1億円
	IT関連その他	3億円	6億円
	計	8億円	11億円
関係会社	生産工場関連	4億円	14億円
	まき網事業関連	2億円	2億円
	養殖事業海上	1億円	1億円
	IT関連その他	0億円	3億円
	計	7億円	20億円
合計		15億円	31億円



本資料は、2018年3月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的として作成しており、必ずしも投資をお勧めするものではありません。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因により、これらの予想と異なることがありますのでご承知おきください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極 洋 企画部 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。